

□日本ボランティア学習協会□
2024年度事業報告

1. 研究活動
ボランティア学習の発展をめざしてつぎの研究活動を行った。

- (1)第27回『日本ボランティア学習学会・愛媛大会』の開催
- ①開催日時：2024年11月16日（土）～17日（日）
 - ②開催テーマ：「つなぐ・つながる・未来につなげる～共に生きるコミュニティづくりを目指して～」
 - ③運営主体：第27回『日本ボランティア学習学会愛媛大会』実行委員会
 - ④開催場所：松山市総合福祉センター（愛媛県松山市若草町2-1）
 - ⑤開催事務局：地域活動センターおかけや
 - ⑥参加者：140名（内オンライン参加4名）
 - ⑦開催内容：（概要）

開会式	歓迎メッセージ		遠藤敏朗（愛媛大会実行委員長）	
	主催者挨拶		興梠寛（日本ボランティア学習協会代表理事）	
	アレクディクソン 賞授与式		「愛媛県立長浜高等学校水族館部」（ボランティア学習実践部門） 「豊かな暮らしラボラトリー」（ボランティア学習推進部門）	
シンポジウム	テーマ「つなぐ・つながる・未来につなげる～共に生きるコミュニティづくりを目指して」			
	シンポジスト	西尾祥之（宇和島市中央公民館「ホリバタ」）		
		善家瑛徳（愛媛大学教職大学院OB）		
		小涼さやか（東温市地域活動支援センター「おかけや」）		
		仙波英徳（NPO法人えひめ子どもチャレンジ支援機構事務局）		
ファシリテーター	大坪直子（日本ボランティア学習協会常任理事）			
自由研究発表	中野 充（新潟青陵大学）「CRMを活用したボランティア希望者を活動に導くための環境づくり」、提 拓也（佛教大学）「ワークキャンプ初参加の学びとプログラムの関係ー2ヶ年分のデータ分析を通してー」、「高野山大学教育学科が取り組む地域体験活動ー社会貢献への参画を目指す協働的な学びー」今西幸蔵、吉村瑛崇、有馬行魅、辻 英士、山本幸穂（高野山大学文学部教育学科）			
分科会	分科会 ～①	テーマ「未来につなげる生涯学習」		
		進行	関 福生	
		助言	大畑伸幸（特定非営利活動法人おむすび）	
		発表	《発表①》「麦の郷の歴史とゆめ・やりたいこと実現センターの歴史について」社会福祉法人一麦会 麦の郷 ゆめ・やりたいこと実現センター（野中康寛、三木将矢、尾方千春）、《発表②》「障がいを超えて ともに優しく地域で暮らす」地域活動支援センターステップ・一般相談支援事業所サポート（土居香織利）、CIL星空浅沼裕子）	
	分科会	テーマ「未来につなげるバリアフリー活動」		

	～②	進行	遠藤敏郎（日本教育公務員弘済会愛媛支部）
		助言	橋本洋光（亜細亜大学）
		発表	《発表①》「未来につなげる体験学習」金村厚司（松山市ボランティア活動体験学習研究会）、釣井まり（松山市ボランティア活動体験学習研究会）、《発表②》「未来につなげる体験学習」武智理恵（神奈川県立あおば支援学校 地域学校協働本部あおばまる 地域学校協働活動推進員）
	分科会 ～③	テーマ「未来につなげる防災活動」	
		進行	田房克寿（えひめ社会教育士ネットワーク）
		助言	仲 伯維（松蔭大学）
		発表	《発表①》「事実を知り、学び合い、備えの先にいのちをまもる」三瀬佳代、古賀テル子、山口智子（語り部のむら018）、島津 凜（高校生語り部）、《発表②》「地域防災×SDG s」細川さくら、高木心翔（愛媛県立松山工業高等学校3年 チームSave Our Future）、《発表③》「地域とともに学び続ける防災学習の必要性」北地真琴（愛媛大学教職大学院2年）
	分科会 ～④	テーマ「未来につなげる地域づくり」	
		進行	浅野長武（伊方町立大久小学校）
		助言	立柳 聡（福島県立医科大学）
		発表	《発表①》「納屋を図書室にしてみたら」平岡真由美（公民家サークル）、《発表②》「マーマレードで地方創生」國分美由紀（一般社団法人JAPANマーマレード協会）
	分科会 ～⑤	テーマ「未来につなげる学生の活動」	
		進行	仙波英徳（NPO法人えひめ子どもチャレンジ支援機構）
		助言	今西幸蔵（高野山大学）
		発表	《発表①》「久米わくチャレヒストリー」品川航太（愛媛大学教育学部3回生）、今永晴香（愛媛大学教育学部附属小学校）、《発表②》「双海町ジュニアリーダー会の活動～双海町で生まれて育って」二宮莉穂（双海町ジュニアリーダー会）
全体会		ファシリテーター：名賀 亨（京都華頂大学・華頂短期大学） 「気づきの共有シート」をもとにまとめの意見交換	
閉会挨拶		栗田充治（日本ボランティア学習協会副代表理事・事務局長）	

(2)研究紀要『ボランティア学習研究』（第25号）の編集と発行

会員のための研究発表の場として、研究紀要『ボランティア学習研究』（第25号・2024年度版：82頁、150部）を編集し発行した。

①応募研究論文等を『研究紀要編集委員会』で審査・査読を行い掲載した。

研究紀要の発行までの編集スケジュール	①論文・実践報告の応募希望受付締め切り	2024年6月20日
	②論文・実践報告の原稿提出締め切り	2024年8月30日
	③応募論文の審査結果通知	2024年11月10日
	④研究紀要の発行	2025年2月下旬

②応募論文や実践報告の他、現代的な研究テーマを設定した課題研究、自由研究、会員投稿、書評などを研

究者・実践者の多様なニーズに応じて編集し掲載した。

コラム	内 容
課題研究	第26回日本ボランティア学習学会かながわ大会
	〔シンポジウム〕 「社会と対話し主体性を育む深い学びとは」（「大学と地域を結ぶ探究型の学び」齊藤ゆか、「若者と地域をつなぐNPOの可能性」高城芳之、「子ども・若者の心に寄り添う社会教育とは」大畑伸幸、コーディネーター：興梠寛）
	〔分科会〕 分科会A「子どもたちや若者が参画する地域づくりと社会教育～大畑伸幸さんとさらに語り合おう」 分科会B「世界と対話し市民性を育むボランティア学習のすすめ方」 分科会C「実践研究の成果をシェアして語り合おう！～学生ボランティアの可能性」
特別寄稿	1. 「つながり合い、育ち合う場をつくる」（森畑裕子） 2. 「双海町ジュニアリーダー会の活動～双海町せ生まれ育って」（二宮莉穂） 3. 「子どもの体験活動に関する評価と課題に関する研究一質的調査と計量的調査からの考察」（今西幸蔵） 4. 「ボランティアラーニング」とは何か～ボランティア学習研究セミナー第1回報告より（興梠寛）
書評	「CUDBAS」を用いたボランティア評価～齊藤ゆか著「ボランティア評価学」（栗田充治）

③2022年4月から紀要編集の実務を担当する紀要編集事務局を松蔭大学（仲 伯維研究室）に設置した。

(3)会員の教材出版への支援

会員の実践や研究の成果を教材等に編集・出版し社会に提供するための支援を行なっている。

①申込み	会員（執筆者）が出版計画を送付し申し込む。
②出版認証	『広報出版委員会』が出版を認証し、執筆へのアドバイス等を行う。
③制作委託	執筆者は、本の編集・制作を『広報出版委員会』に委託する。
④発行	発行元（版權者）は協会とし、執筆者（著作権者）は会員とする。
⑤買い取り	完成本は、執筆者が買い取ることを条件とする。
⑥販売支援	公式ホームページ、学会、会員への広報等を通して販売を支援する。

※2023年度の申請者はなかった。

2. ボランティア学習推進活動

幼・小・中・高等学校や大学、社会教育等の教育関係者、行政機関、NPO・NGO、企業関係者などを対象に、人材養成のためのプログラム開発や運営への助言等を行った。

(1)『ボランティア学習研究フォーラム』の検討

協会の『事務局運営会議』で『ボランティア学習研究フォーラム』などの協議を行った。

(2)講師の紹介・派遣

ボランティア学習の推進に関する講師派遣への協力や講師の紹介等を行った。

(3)後援および協力団体等としての支援

『熊本市国際交流振興事業団』が主催し、高校生実行委員会が企画運営する、第19回『国際ボランティアワークキャンプin Aso』（2024年8月16日～18日、会場：国立阿蘇青少年交流の家）に協力団体として参加した。

3. 情報提供活動

協会活動の広報や会員への情報提供などを行った。

- (1) 公式ホームページ『Volunteer Learning Web』を活用して広報活動を行った。
- (2) 会員を対象に、会報『Volunteer Learning』（年2回）を発行した。

4. ボランティア学習顕彰活動

“世界のボランティアの父”アレックディクソン博士の功績を記念した第19回『アレックディクソン賞』（2024年度）を授与し、優れた実践者、推進者、若い研究者を顕彰した。

(1)実施主体

- ①日本ボランティア学習協会『アレックディクソン賞選考委員会』による選考を行った。
 - ②受賞者には、賞状および協会特製の記念オブジェを授与した。
- (2)『アレックディクソン賞』授与の各部門と選考方法・対象について

部 門	内 容	選 考	対 象
ボランティア 学習研究部門	優れた研究活動を行 った人や組織に授与	会員が『研究紀要』に応 募した論文を対象に審査	40歳未満の研究者を対象
ボランティア 学習実践部門	優れた実践活動を行 った人や組織に授与	会員の推薦をもとに選考 委員会で審査	児童生徒・学生や組織等を対象
ボランティア 学習推進部門	優れた推進活動を行 った人や組織に授与	会員の推薦をもとに選考 委員会で審査	推進活動を行う個人・組織等を対 象

(授与する対象は、原則として各1名または1組織)

(3)選考日程

	日 程	方 法
①会員推薦募集期間	7月1日～9月30日	会員による推薦方式で行い、ホームページや会報等で募 集する。推薦締め切りは、9月30日。
②選考	10月初旬	『アレックディクソン賞選考委員会』で審査する。
③発表	10月末日	受賞者に通知し、協会ホームページ等で発表する。
④表彰	10月～12月	『日本ボランティア学習学会』開会式で表彰する。

(4)2024年度の受賞者

『アレックディクソン賞選考委員会』により選考した2023年度受賞者は下記のとおり。

2024年度 受賞者	ボランティア学習研究部門	(該当者なし)
	ボランティア学習実践部門	『愛媛県立長浜高等学校水族館部』（愛媛県長浜市）
	ボランティア学習推進部門	『豊かな暮らしラボラトリー』（島根県益田市）

(5)受賞者の表彰

受賞者には、第27回『日本ボランティア学習学会・愛媛大会』で賞状および記念オブジェを授与した。

(6)『アレックディクソン賞』を運営する基金を設けて寄付者を募集した

『アレックディクソン賞基金』を設けて、会員をはじめ個人や組織、財団、企業等に賛助寄付（個人一口1,000円、組織一口100,000円）を募り運営の財源にあてた。

5. アドバイザリー活動

会員が中心になり、ボランティア学習をはじめ、サービslラーニング、市民教育、生涯学習、地域学校協働活動などの推進や学校教育や社会教育の現代的課題に応えた先駆的教育モデルを調査研究し、教育機関等に情報提供や助言を行った。

6. 国際交流活動

- ボランティア学習の発展に寄与するために、つぎの国際交流活動や海外情報の収集・提供を行った。
- (1)『日英ギャップイヤー計画』（Japan-UK Gap Year Project）
- 英国の『Project Trust』との提携により「ギャップイヤー・ボランティア」（Gap Year Volunteer）の日本側受け入れ窓口として、活動先の募集、ボランティアの研修、活動先への助言などを行う。
- 2023年9月～2024年8月までの活動先は、『洞爺湖町国際交流協会』（北海道）、『順天中高等学校』（東京都）、『一燈園・燈影学園』（京都府）の3か所。また、2024年1月～8月までの活動先は、『はんしん自立の家』（兵庫県）、『興望館』（東京都）の2か所。ボランティアは、2名1組・計10人。
- ※本計画は、2024年度をもって受け入れ窓口を終了した。
- (2)国際交流情報の提供
- 会員を対象に、海外のボランティア学習に関する海外の研究情報や国際交流窓口を紹介した。

7. 政策提案活動

ボランティア学習の発展とよりよい社会環境の開拓のために、国及び地方自治体、関係諸機関の各種審議会や研究委員会等に参加し、政策提言活動を行った。

8. 組織運営活動

- 協会活動の充実のために、つぎの組織運営を行った。
- (1)各種会議
- 会員総会、理事会、組織運営理事会で下記の審議を行った。
- ① 会員総会：5月26日にオンラインで開催。2023年度事業報告・決算報告、2024年度事業計画・予算計画等を審議した。
- ② 理事会
- 理事会（第1回：2024年5月26日、第2回：2025年3月30日）：オンラインで開催。

第14期役員（任期：2022年11月～2024年11月 ※所属・敬称略	
理事	興梠 寛（代表）、栗田允治（副代表）、橋本洋光（副代表）、名賀 亨（副代表）、大坪直子（常任）、八木浩光（常任）、中野 充（常任）、立柳 聡（常任）、斉藤 睦（常任）、木村清一、齊藤ゆか、富永耕造、今西幸蔵、高田 研、仲 伯維、服部英二、西尾雄志、高見大介、北見靖直、有里泰徳、磯田浩司、馬場裕次郎、山本裕一、出口寿久、長沼 豊、鳥羽 茂、大畑伸幸、柴崎あい、木下直子、田中 人、仙波英徳（以上31名）
監事	甲野綾子、浅野和久（以上2名）

※但し、第15期役員の改選については、2025年3月30日の理事会で継続協議。

- ③ 組織運営理事会：組織運営に必要な会議を随時にオンライン等で行った。
- (2)各種委員会の開催

委員会	活動内容
①『研究紀要』編集委員会	『研究紀要』の原稿募集・選考・査読・編集・発行などを行った。
②『アレックディクソン賞』選考委員会	『アレックディクソン賞』の募集・選考、および基金運営・財源の開拓などを行った。
③『ボランティア学習研究フォーラム』企画運営委員会	会員を対象にしたオンラインセミナーの在り方を検討するとともに、試行的に3回（講師：興梠 寛、栗田允治、橋本洋光）ほど開催した。

- (3)会員の拡大

- ①理事が中心になり会員の拡大をすすめている。若い世代の参加の開拓が課題である。
- ②学校・社会教育関係者、NPOや企業などの多彩な分野の研究者・実践者の参加を募っていく。

(4)財源の開拓

理事が中心になり会費収入、寄付金や補助金申請の可能性、事業収入等の開拓などを行っている。

(5)組織運営

- ①組織運営のために首都圏の理事等を中心に役割を分担し、毎月1回程度の「事務局運営会議」を開催するなどの組織の運営を行った。
- ②会員への文書発送など必要に応じて事務を補助するアルバイト・スタッフを雇用した。

(6)運営体制（2024年度）

2024年度は、理事を中心に以下の運営体制や委員会をもとに組織運営を行った。

①事務局運営体制

役 割	内 容	担当理事・会員（◎印は責任者）
事務局長	事務局運営に関する総合的な連絡調整	栗田
事務局次長	事務局長を補佐し事務局運営にあたる	大坪
会計・会員担当	組織運営に関する庶務・会計・会員管理	◎大坪、橋本
広報出版担当	ホームページ等による組織広報及び出版	◎興梠、中家（会員）
研究紀要担当	研究論文の募集・査読と紀要編集発行	◎栗田、仲
国際交流担当	ギャップイヤー計画の推進・国際交流	◎中家、興梠、立柳
ディクソン賞担当	アレックディクソン賞の運営	◎興梠、名賀、橋本、原田

②常設委員会担当理事

（委員会）	（活動内容）	担当理事 ◎印は委員長
研究紀要編集委員会	会員を対象に『研究紀要』の原稿募集・選考・査読・編集・発行などを行う。	◎栗田、馬場、今西、斎藤（睦）、長沼、立柳
『アレックディクソン賞』選考委員会	『アレックディクソン賞』の募集・選考・基金運営・財源の開拓を行う。	◎興梠、橋本、西尾、磯田、大坪、大畑、柴崎、名賀、八木、原田
『ボランティア学習研究フォーラム』企画運営委員会	会員を対象にしたオンラインセミナーの在り方を検討する。	◎八木、橋本、栗田、興梠、北見、高田、中野、立柳

(以上)

日本ボランティア学習協会
2024年度一般会計収支報告(中間報告)

1. 収入の部

項 目	予算額	決算額	内 訳
①会費	435,000	333,000	<u>一般:5,000円*65・青年:2,000円*1・学生:1,000円*6</u>
②寄付収入	20,000	0	
③販売収入	10,000	5,240	紀要・ブックレット販売
④事業収入	0	0	講師紹介等収入
⑤雑収入	3	130,584	学会オンライン参加費3,000円・利子233円 協会財産の精算分 127,351円
⑥繰入金収入	604,450	604,450	前年度繰入金
	1,069,453	1,073,274	

2. 支出の部

項 目	予算額	決算額	内 訳
(1)事務局費	103,000	57,254	
①賃金	10,000	6,000	アルバイト賃金
②旅費	0	0	事務局・役員旅費
③印刷製本費	30,000	10,542	会報等の印刷
④消耗品費	5,000	1,210	封筒・紙・文具等
⑤通信運搬費	30,000	23,763	郵送費・各種連絡費
⑥借損費	0	0	会議室借用料等
⑦会議費	23,000	10,330	ZOOMライセンス料等
⑧雑費	5,000	5409	振込手数料等
(2)事業費	600,000	466,782	
①研究紀要の発行	250,000	208,795	印刷製本費、郵送費
②ボランティア学習学会運営準備金	200,000	188,577	大会運営費185,577円(詳細は別途愛媛大会 収支報告書参照)オンライン参加費3,000円
③実践交流の場の提供	50,000	0	
④ホームページ運営費	100,000	69,410	サーバー契約、管理費、
(3)予備費	366,453	0	
支出合計	1,069,453	524,036	

収入合計	1,073,274	
支出合計	524,036	
残金	549,238	2025年度へ繰越

□日本ボランティア学習協会□
2025年度事業計画

1. 研究活動

(1)第28回『日本ボランティア学習学会・京都大会』の開催

ボランティア学習の実践と研究の発展をめざして、佛教大学二条キャンパスで学会を開催する。

①開催期日：11月15日（土）

②開催場所：佛教大学二条キャンパス（京都市中京区西ノ京東梅尾町7）

③運営主体：第28回『日本ボランティア学習学会』企画運営委員会

※協会の理事・会員・開催地有志などにより「企画運営委員会」を組織して実施する。

※第29回（2026年度）学会は「東日本大震災から15年」をテーマに宮城県女川町での開催を検討中。

(2)研究紀要『ボランティア学習研究』（第26号）の編集と発行

会員による研究発表の場として研究紀要を発行する。

①課題研究・特別寄稿・自由研究・書評・研究情報等によって紙面構成する。

②会員を対象に研究論文や実践報告を募集し査読を行い掲載する。

③『研究紀要編集委員会』によって応募論文の審査・査読・編集・発行を行う。

④編集事務局を協会理事「松蔭大学・仲伯維研究室」に置く。

⑤論文等の応募・編集・発行

『研究紀要』の応募 から編集・発行まで のスケジュール ※2025年度の予定	①論文・実践報告の応募と受付の締め切り	2025年6月20日
	②論文・実践報告の原稿提出の締め切り	2025年8月30日
	③応募論文についての審査結果の通知予定	2025年11月上旬
	④研究紀要の発行予定	2026年2月上旬

2. ボランティア学習推進活動

(1)『ボランティア学習研究フォーラム2025』の開催

協会会員を対象に研究フォーラムを開催する。

①研究フォーラムはオンライン開催を原則とする。

②協会会員が抱える多様な実践・研究課題をもとに課題を共有し課題解決のための意見交換を行う。

③研究フォーラムを企画運営するために、理事・会員による『企画運営委員会』を組織し実施する。

④研究フォーラムをきっかけに会員の相互交流を活性化していく。

(2)第20回『国際ボランティアワークキャンプ in Aso』（8月15日～17日・国立阿蘇青少年自然の家）を協力団体として参加し支援する。本年度は、開催20周年を記念する集会となる。

①主催：『熊本市国際交流振興財団』・企画運営：高校生実行委員会

②開催日：2025年8月15日～17日

③会場：国立阿蘇青少年自然の家

3. 情報提供活動

協会活動の広報や会員への情報提供などを行う。

①公式ホームページ『Volunteer Learning Web』を活用して広報活動を行う。

②会員を対象に会報『Volunteer Learning』（年2回）を発行する。

4. ボランティア学習顕彰活動

ボランティア学習を顕彰する『アレックディクソン賞』の授与

- ①“世界のボランティアの父”アレックディクソン博士の功績を記念した第20回『アレックディクソン賞』（2025年度）を授与し、優れた実践者・推進者・研究者を顕彰する。
- ②『アレックディクソン賞選考委員会』による選考を行う。
- ③ 受賞者には、賞状および協会特製の記念オブジェを授与する。
- ④『アレックディクソン賞』授与の各部門と選考方法及び対象について

部 門	内 容	選 考	対 象
ボランティア学習 研究部門	優れた研究活動を行っ た人や組織に授与	会員が『研究紀要』に応募した 論文を対象に審査する	40歳未満の研究者を 対象
ボランティア学習 実践部門	優れた実践活動を行っ た人や組織に授与	会員の推薦をもとに選考委員会 で審査する	児童生徒・学生や組 織等を対象
ボランティア学習 推進部門	優れた推進活動を行っ た人や組織に授与	会員の推薦をもとに選考委員会 で審査する	推進活動を行う個 人・組織等を対象

（授与する対象は、原則として各1名または1組織）

⑤選考等の日程

	日 程	方 法
①会員推薦期間	7月1日～9月20日	会員による推薦を募集し、締め切りは、9月20日。
②受賞者の選考	10月初旬	『アレックディクソン賞選考委員会』で審査する。
③受賞者の発表	10月末日	受賞者に通知し、協会ホームページ等で発表する。
④受賞者の表彰	11月頃	『日本ボランティア学習学会』において表彰する。

※全国各地の優れた実践・研究を発掘し社会に顕彰するため会員からの広報・推薦をお願いします。

- ⑥『アレックディクソン賞基金』を設け、会員をはじめ個人や組織・財団・企業等に賛助寄付（個人一口1,000円、組織一口10,000円）を募り運営の財源にあてる。

5. アドバイザリー活動

(1)ボランティア学習推進機関や実践者等への相談助言

(2)会員の教材出版への支援

会員の研究・実践活動の成果を教材等に編集・出版し社会に提供するための支援を行なう。

①申込み方法	会員（執筆者）が出版計画を作成・送付し事務局に申し込む。
②出版の認証	『出版支援委員会』を開催して認証し必要に応じて執筆者へのアドバイスを行う。
③制作委託	執筆者は本の編集・制作を『出版委員会』に委託することができる。
④発行元	発行元（著作権者）は協会とし、執筆者（著作権者）は会員とする。
⑤買い取り	完成本は執筆者が買い取ることを条件とする（発行手数料は別途定める）。
⑥販売支援	公式ホームページや学会などの各種事業、会員への広報等で販売を支援する。

6. 国際交流活動

(1) ボランティア学習実践者や研究者のための海外情報の提供

(2) 国際交流活動への支援

会員等を対象に海外のボランティア学習交流先などの紹介などを行う。

7. 政策提案活動

(1) ボランティア学習の発展や社会的環境の開拓のために、国及び地方自治体、関係諸機関の各種審議会や研究委員会等に参加して政策提言活動等を行う。

(2) 幼・小・中・高等学校や大学、社会教育等の教育関係者、行政機関、NPO・NGO、企業関係者などを対象に、ボランティア学習プログラムの開発やプログラム運営への助言等を行う。

(3) ボランティアを推進する専門的人材「ボランティア学習プログラムコーディネーター」（仮称）を養成することの重要性に鑑み、人材養成のための研修プログラムの研究開発を行う。

8. 組織運営活動

(1) 各種会議

① 会員総会

2025年5月18日10：00～12：00（事業報告・事業報告等をオンラインで開催）

※学会への参加をはじめ、会員間の交流促進、会員の拡大への協力をお願いする。

② 理事会

第1回理事会：2025年秋頃を予定（事業の中間報告・進捗状況や課題、学会準備状況等を協議）

第2回理事会：2026年3月下旬を予定（事業報告や決算、新年度事業計画や予算等を協議）

③ 組織運営理事会

代表、副代表、常任理事によって組織運営に必要な協議（随時）を行う。

④ 事務局運営会議

事務局運営担当理事により毎月1回程度の「事務局運営会議」を開催し諸事業の運営を行う。

(2) 各種委員会の開催

委員会	活動内容
①『研究紀要』編集委員会	『研究紀要』の原稿募集・選考・査読・編集・発行などを行う。
②アレックディクソン賞 選考委員会	『アレックディクソン賞』の募集・選考、および基金の運営や財源の開拓などを行う。
③『ボランティア学習研究フォーラム』運営委員会	ボランティア学習推進者を対象に『ボランティア学習研究セミナー』の企画・運営を行う。
④『ボランティア学習推進者養成セミナー』研究委員会	ボランティアを推進する専門的人材「ボランティア学習プログラムコーディネーター」（仮称）を養成する研修プログラムの研究開発を行う。

(3) 協会事務局の運営

事務局運営担当理事の他、必要に応じて事務を補助するアルバイト・スタッフを雇用し事務運営を行う。

(4) 運営体制（2025年度）

理事・会員を中心に以下の運営体制や各種委員会を組織し運営をすすめる。

① 事務局運営体制

役 割	内 容	担当理事・会員（◎印は責任者）
事務局長	事務局運営に関する総合的な連絡調整	栗田
事務局次長	事務局長を補佐して事務局運営を行う	大坪
会計・会員担当	組織運営に関する庶務・会計・会員管理	◎大坪、橋本、中家

広報出版担当	ホームページ等による組織広報活動	◎興梠、中家（会員）
研究紀要編集担当	研究論文の募集・査読と紀要編集発行	◎栗田、仲
ボランティア学習研究 フォーラム担当	『ボランティア学習研究フォーラム2025』	◎八木、立柳、橋本
ディクソン賞担当	『アレックディクソン賞』の運営	◎興梠、橋本、名賀

②2025年度の常設委員会と委員名

委員会	委員（◎印は委員長）
①第28回『日本ボランティア学習学会・京都大会』企画運営	※理事・会員・開催地協力者から委員を選任する
②研究紀要編集委員会	◎栗田、馬場、今西、斉藤（睦）、立柳、長沼
③『アレックディクソン賞』選考委員会	◎興梠、栗田、橋本、西尾、磯田、大坪、大畑、柴崎、名賀、八木
④『ボランティア学習研究フォーラム2025』企画運営委員会	※理事・会員から委員を選任する
⑤『ボランティア学習推進者養成セミナー』研究委員会	※理事・会員から委員を選任する

(以上)

**日本ボランティア学習協会
一般会計2025年度予算(案)**

1. 収入の部

項 目	予算額	内 訳
①会費	385,000	一般5,000×75、学生1,000×10
②寄付	20,000	
③販売収入	10,000	紀要・ブックレット販売
④事業収入	0	講師紹介等収入
⑤雑収入	30	利子等
⑥繰入金収入	549,238	前年度繰入金
合計	964,268	

2. 支出の部

項 目	予算額	内 訳
(1)事務局費	125,000	アルバイト賃金@1,000×10 事務局・役員旅費 会報、協会リーフレット作成費他 インクカートリッジ・紙・文具等 郵送費・各種連絡費 会議室借用料等 ZOOMライセンス料等 振込手数料等
①賃金	10,000	
②旅費	0	
③印刷製本費	30,000	
④消耗品費	5,000	
⑤通信運搬費	40,000	
⑥借損費	0	
⑦会議費	30,000	
⑧雑費	10,000	
(2)事業費	630,000	ボランティア学習学会大会 (交通費30,000円を含む) 研究セミナー等の開催 サーバー契約、メンテナンス費
①研究紀要の発行	250,000	
②ボランティア学習学会運営準備金	230,000	
③実践交流の場の提供	50,000	
④ホームページ運営費	100,000	
(3)予備費	209,268	
合計	964,268	